

議事要旨（速報版）

1 / 4

件名：	新滝ヶ洞溜池の水質異常に係る対策協議会 第13回 対策協議会
日時：	平成23年2月24日（木）13:30～15:30
場所：	可児市総合会館分室 2階 大会議室
出席者：	出席者30名 欠席1名（堀内委員） 杉崎委員長、佐藤委員、大沼委員、今村委員、平山委員、丹羽委員、山崎委員、林（鎮）委員、長谷川委員、高木委員、奥村（照）委員、梶川委員、足立委員、田口委員、佐橋委員、加藤（光）委員、田中委員、細田委員、梅田委員、加藤（匡）委員、山田委員、中村委員、今井委員、服部（利）委員 事務局…樋口、篠田、長瀬、服部（一）
配布資料：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第13回対策協議会議事次第 ・ 第13回席次表 ・ 第13回委員名簿 ・ 第12回議事要旨 ・ 資料1 ・ 資料2 協議会への意見質問 ・ 資料3 巻末資料
議事内容：	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶（杉崎委員長挨拶）</p> <p>3. 議事</p> <p>○事務局： 資料による説明（1. 水質の観測状況 2. 新プラントの状況 3. モニタリング計画）</p> <p>○加藤（匡）委員： 新プラントの年間の概算管理費、プラント用地の借地料について具体的な数字を教えてほしい。</p> <p>○事務局： 維持費については、まだ新プラントが稼働したばかりなので、今回のモニタリングをしていく中で、その費用を調べていきます。借地契約につきましては今進めているところです。</p> <p>○大沼委員： これまではフルの議事録をもらっていたが、今回は配布がなかった。フルの議事録はもらえるのか。</p> <p>○事務局： 準備します。</p> <p>○梅田委員： 1ページの図の東と西のコルゲートの間隔はどれぐらいか。また2ページの図は2,000リットル以上超したように見えるけれども、数値は、浸出量か降水量か何かわからない。</p> <p>○服部委員： 資料2ページの浸出量は、東コルゲートは2,029リットル、西コルゲートは1,242リットルです。東コルゲートと西コルゲートの間隔は、約40mです。</p> <p>○大沼委員： 資料1の3ページの処理水量を見ると、この1年間ぐっと増えている。ボーリング孔の水位データも、降雨に連動して上昇するものがあるが、それは覆土工が破れていることを示しているのではないか。</p> <p>○事務局： 22年は、21年と比べ、年間降水量で3割ぐらい多い状況でその影響が出ていると思います。</p> <p>○大沼委員： 覆土工施工から5年経過し、こういう症状が出てきたということは、将来重要な問題となるのではないか。</p> <p>○田口委員： ボーリング孔を国に要望し今回すべて点検をして頂いた。このまま少し様子を見て、今後改めて議論するほうが良いのではないか。</p> <p>○今村委員： もともと集水対策工のために地下水流動の計算をするためのもので、役目は終わっている。壊れている井戸も非常に多いので、基本的にはつぶした方がいい。</p>

- 大沼委員： 湧水量が増えているのはどうですか。
- 今村委員： この山全体の地下水位は近年の降雨量の増加によって上がっていて、基底流量が上がるので、当然コルゲート東とかコルゲート西も、トレンド的には、この3年間は上がっていていいと思います。
- 大沼委員： この議論は、多分結論は出ないと思うが、来年までトレンドを冷静に見るしかない。事務局からちゃんとした井戸を1個は天端内に設けるといような返事を頂けないか。
- 足立委員： 今、大沼先生から正しいデータをとるためには新しいボーリングが必要ではないかとの提案があるわけですから、それをよく検討して下さい。
- 今村委員 盛土内については、1本掘るかについては検討し、外側は生きている井戸のうち1本を残すくらいでいいと思う。
- 服部委員： 現段階では新たなボーリング孔は設置しない考えですが、既存の井戸は使えないという意見も頂いていますので、全体を見て、必要があれば、新たなボーリングも含めて検討したいと思います。
- 加藤(匡)委員 目詰まりを起こしているから、もうこれは意味がないというのでは納得できない。最低あと1年ぐらいは同時並行でやっていかないと。
- 今村委員 目詰まりしているのは、洗えば何とか可能性はある。
- 田口委員 一応すべて清掃されたということですので、1年間このままの状況で、次回の協議会の中でそのデータを再検証していただいた方がいいんじゃないかと思います。
- 杉崎委員長： 目詰まりとか、実態を反映していないようなデータで議論しても始まらないと思う。もし、水位のことを調べるなら、将来可能であれば、新しく検討し直すということで、いかがですか。
- 事務局： 新プラントのモニタリング計画について説明。
- 大沼委員： 新プラントの点検頻度等の目安をつけるための調査を1年やるということだから、モニタリングを1年でやめるという意味じゃないですね。この1年間で、今度は2年目以降のチェック事項を決めて、マニュアルをつくっていくわけですよ。この1年動いた後の総括で、そういったものの提示ということですか。
- 事務局： そのとおりです。
- 大沼委員： 緊急配備態勢で、30分以内に現場に急行できるところに係員がいるということは、そこにデータかアラームが届くのか。であれば、住民が見れるような掲示板を設けてはどうか。
- 事務局： 遠方監視の機器ですが、携帯電話に緊急事態を知らせるメールが届くものと、インターネットを使ってのパソコン上での確認できるものの二つがあります。ただし、その機器は、どちらか一方を使っていると、回線の関係とありますが緊急時のメールが届かないということがあります。よって掲示板に表示ということは難しいと考えています。
- 大沼委員： そうすると、生データは行かないのか。pHの上限を超えたよというふうなアラームだけがその担当者のところへ行くというシステムなのか。
- 事務局： 観測値は出ます。
- 大沼委員： であれば、そのシステムを使って電光掲示板にリアルタイムで表示ができるわけですよ。住民の人も監視してくれることになるので、その方が良いのではないか。
- 事務局： 先ほど御説明しましたけれども、現地で使用できる回線が少ないので、パソコンを使用していると、携帯電話のメールの方の情報が届かないこととなりますので、難しいと考えています。
- 大沼委員： やる気さえあれば、そんなにお金をかけなくても現在は可能だと思うが。

- 服部委員： 今提案のことについて、必要性も含めて、これからの課題だと思います。いずれにしても、きちっとデータを見て、ちゃんとした水処理をしていくという第一使命を全うしたいと思っております。
- 加藤（匡）委員： 水質を汚した起因者として全うするのは当然だ。そんなに経費がかかることじゃないならば、検討頂けないか。
- 服部委員： そういった方法が適当なのかどうかということは、一度考えたいと思えますけれども、データの公表については、きちんとしていると思っております。
- 田口委員： 1年間ぐらい提案されたような方向で進んで、それから改めて検討したらどうですか。モニタリング期間中の保守管理のあり方ですが、常駐するという形になるのか。
- 事務局： 今回のモニタリング期間も、従前と同様に管理人が常駐する方法でやっていきます。その後はモニタリングを進める中で整理していきたい。
- 杉崎委員長： 表示につきましてはいろいろ問題があるようで、次回までに一応成案を作ることで、今回は話をとどめたい。よろしいか。
- 事務局： 水質の分析の管理項目について説明
- 大沼委員： 月に4回やると、その高い値と低い値、極端な値を拾うということですよ。月1回にすると、それが滑らかになるという問題ですよ。単純に、頻度を緩めて測ればいいというだけの問題ではないと思います。
- 杉崎委員長： こういう自然の揺らぎということにつきまして統計的には非常に難しくなると思います。今のデータから判断するとそれほど飛び離れたものはなく変なことにはならない気がします。
- 田口委員： 我々事務局もこの問題について検討し、基本的には提案された趣旨について支持をするということにした。当分このシステムでやっていって、将来、何か問題が起きた場合にまた考えるということにしてはどうか。
- 杉崎委員長： 提案のようにやっていただいて、将来問題が起こった場合には、また考えるということにしたらどうか。
- 大沼委員： 全体の決議がそうならば仕方がないのかもしれませんが、少しだけコメントしておきます。起きている現象が自然に起きていて揺らいでいる現象ではなくて、明らかにメカニズムがあるということですから、それを意識した調査が要と思います。
- 佐藤委員 15 ページの観測頻度以外に、例えば総水銀とか界面活性剤の項目が必要か少し議論した方がいいような気がします。
- 加藤（光）委員： 賛成です。全く関係ないことがいっぱいあるだろうと思う。
- 杉崎委員長： 私も同様に思っています。その二つを削っても良いと思います。
- 大沼委員： 掘削残土と関係ない項目が挙げられているのは、歴史的経緯があったと理解している。一見関係ないと思われる項目も測ってお手柄だったことはあった。ただ、界面活性剤を今なお測り続けるのは、僕もちょっと疑問に思う。
- 平山委員： 7年、8年たってほとんど何も反応しないということは、界面活性剤はもういいんじゃないか。また、一般金属もいいのかなというのが私の意見です。
- 田口委員： 金属を削除する問題は、次回にまた改めて検討していただいて、そこで削除するなり何なりの方法をとることでどうでしょうか。
- 杉崎委員長： 少なくとも界面活性剤はオミットする。できれば私は、塩素も要らないんじゃないかと思えます。その二つの項目を削るということはどうでしょうか。
- 平山委員 委員長の案に賛成します。

- 杉崎委員長： 今日のところをまとめますと、電光掲示版のようなものは将来考えることで良いのではないのでしょうか。また水質の観測頻度については、硫酸、アルミニウム、カルシウムなど8項目は観測頻度を月1回とし、界面活性剤と塩素については削除するというところでどうでしょうか。
- それから、地下水観測について何か必要な提案があれば、モニタリングは1年かけてやるわけですから、そのときにまた考え直すということはどうでしょうか。特に意見がないようでしたら、これで終わりにしたいと思いますがいかがでしょうか。
- 大沼委員： 資料1の5ページですけれども、平成21年までと異なり、平成22年度は水色のバーが7近傍におさまっている。これは、植物プランクトンが生えなかったことを示している。なぜそうなったのかこれは少し注目しながら、来年以降見る必要があると思う。つまり、何らかの生物毒が入ってきたことも考えられない訳ではない。ちょっと考え過ぎかもしれないが指摘だけしておく。
- 田口委員： 協議会を6カ月に一回開催と取り決めているが、今回1年間モニタリングをやるので、その終了後に協議会を開催するか、もしくは必要に応じて協議会を開催することにし、地元事務局と国交省事務局、市事務局と協議をして決めることにして頂きたい。
- 杉崎委員長： 何か起これば招集するが、なければ1年に1回としたいと思いますが、よろしいですか。
- 梅田委員： 最後に、新プラントの安全対策を、安全な運転を確保するように努めてもらいたいと思う。前回資料の内容を厳守して進めてほしい。安全だけ確実に確保するようにお願いしたい。
- 杉崎委員長： それは事務局が記録にとどめてください。ほかにございませんか。ないようでしたら、これで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

4. 閉会